

昭和四十九年十一月招集

第三回館山市議會臨時會會議錄

館山市議會

目次

日時	一
場所	一
出席議員	一
出席議員	一
欠席議員	一
出席説明員	一
出席事務局職員	一
議事日程	二
開會	二
議長の報告	二
議案の配付	二
會議録署名議員の指名	二
会期の決定	二
提案理由の説明	二
議案第七十三号	三
議案第七十四号	五
議案第七十五号	七
日程の追加・辻田 実君の議員辭職について	九
辻田 実君のあいさつ	九
日程の追加	〇
館山市、富浦町及び三芳村学校給食組合議會議員補欠選挙	一〇
閉會	一一
本日の會議に付した事件	一一

一、昭和四十九年十一月八日(金曜日) 午前十時

二、館山市役所議場

一、出席議員 二十六名

一 番	吉田 勇治郎	二 番	林 豊
三 番	流山 源次郎	四 番	鈴木 稔
五 番	近藤 好雄	六 番	栗原 一雄
七 番	渡辺 昭夫	八 番	石井 武敏
九 番	辻田 実夫	〇 番	渡辺 軍治郎
一 番	山本 昇	一 番	藤田 益治
二 番	五十嵐 昇	二 番	伊賀 多朗
三 番	辻井 謹爾	三 番	安西 益男
四 番	島野 茂樹郎	四 番	君塚 喜三
五 番	鈴木 市蔵	五 番	田村 源治郎
六 番	菊井 敏博	六 番	西村 真次
七 番	安沢 徳順	七 番	田中 禄郎
八 番	秋山 六三郎	八 番	遠山 ヨネ子
九 番	和田 一郎	九 番	飯田 義男
一〇 番	望月 照正	一〇 番	二 六 番
一一 番	市 長 本間 謙	一一 番	助 役 畠 山 伝
一二 番	収入 役 高木 哲三	一二 番	秘書 課 長 太田 博雄
一三 番	庶務 課 長 小倉 澄男	一三 番	保健 課 長 綱島 憲治
一四 番	衛生 課 長 館石 勘治	一四 番	建築 課 長 佐野 甲子郎
一五 番	教育 長 安田 豊作	一五 番	教育 委員 会 汐崎 政光
一六 番	庶務 課 長 安田 豊作	一六 番	庶務 課 長 汐崎 政光

一、出席事務局職員

事務局長	高尾 豊	事務局長補佐	脇田 元始
書記	兵藤 恭一	書記	鈴木 哲
書記	安西 良一	書記	川上 義雄
書記	福田 英雄		

一、議事日程

昭和四十九年十一月八日午前十時開議

日程第一 會議録署名議員の指名

日程第二 会期の決定

日程第三 議案第七十三号 工事請負契約の締結について

日程第四 議案第七十四号 工事請負契約の締結について

日程第五 議案第七十五号 昭和四十九年度館山市国民健康保険特別会計補正予算(第一号)

開

会 午前十時三分開会

○議長(吉田勇治郎君) 本日の出席議員数二十一名、これより昭和四十九年第三回市議会臨時会を開会いたします。

議長の報告

○議長(吉田勇治郎君) 本臨時会の議案審議のため地方自治法第百二十一条の規定による出席要求に対し、お手もとに配付のとおり出席報告がありましたので御了承願います。

議案の配付

○議長(吉田勇治郎君) 議案を配付いたさせます。議案の配付漏

れはございませんか。― 配付漏れなしと認めます。

本日の議事はお手もとに配付の日程表により行ないます。

會議録署名議員の指名

○議長(吉田勇治郎君) 日程第一、會議録署名議員の指名を行ないます。

一三番議員五十嵐 昇君、二〇番議員君塚喜三君、以上両君を指名いたします。

会期の決定

○議長(吉田勇治郎君) 日程第二、会期の決定を行ないます。本臨時会の会期につき議会議事協議会の意見は本日一日ということがあります。

おはかりいたします。会期を一日と定めますことに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(吉田勇治郎君) 御異議なしと認めます。よって会期は本日一日と決定いたしました。

提案理由の説明

○議長(吉田勇治郎君) この際、本臨時会招集につき市長のあいさつ並びに提案理由の説明を求めます。

(市長本間 譲君登壇)

○市長(本間 譲君) 本日ここに第三回の臨時市議会をお願いしましたところ、議員の各位におかれましては何かと御多忙の

る御出席をいただきましてまことにありがとうございます。

きょう御審議をお願いいたします案件は工事関係二件、補正予算関係一件でございます。

その一つとしましては、第二中学校の防音校舎の内装工事の請負金二億三百万円でございますが、これは従前のように十四社でしたか競争入札によりまして決定をみた次第でございます。そしてこれを石井工務店が落札をいたしましたという次第でございます。

それからもう一つは、正木衛生処理場の増設工事でございます。これは日本建炉工業株式会社の特許というふうになっておりまして、最初あの会社にお願ひした関係上、今度も見積もりを出していただきまして極力折衝いたしました結果、四千四百九十万円で話し合いができた次第でございます。

それでこのことにつきましては議員の方々も、あの煙については住民から苦情、反対陳情が出ていることは御承知のとおりでございますが、地元民のたつての要望でございますので、五カ年以内に適地を探して移転しよう、こういうようなことに話し合いができておるわけでございます。今度増設する一〇トン炉も大体四、五年の寿命しかないわけでございますから、五年ぐらいのうちに適地を探して移転して被害を除去しよう、こういうような話し合いになっておるわけでございます。

それから国民健康保険でございますが、本年から御承知のように制度が変わりまして、負担三万円以上の者に対しては国及び市で負担するというところでございましたが、非常にこれを利用する方が多くなつたためにどうしても千五百万ぐらいの追加をお願いしなければ三月までやっていけないということでございますが、

一千五百万と申し上げてもその半分は政府の助成がまいるわけでございまして、あとは市の予算内においてこれをやりのけるということでございますが、たいへんいい制度でございますけれども、苦しい保険行政の中においては容易じゃないというようなことでございます。

詳しいことにつきましては、関係課長から御説明をさせますので、よろしく御審議をいただきたいと存じます。

○議長（吉田勇治郎君） 以上で市長のあいさつを終ります。

議 案 の 上 程

○議長（吉田勇治郎君） 日程第三、議案第七十三号工事請負契約の締結についてを議題といたします。

議案の朗読を願います。

（書記朗読）

議案第七十三号 工事請負契約の締結について

議 案 の 内 容 説 明

○庶務課長（小倉澄男君） 議案第七十三号につきまして御説明申し上げます。

これは館山市立第二中学校防音改築第一期内装工事でございます。先般十四業者を指名いたしまして入札を施行いたしました結果、石井工務店が三度目の札で最低の札を提出したわけでございますが、その後見積もりを徴しました結果二億三百万円の見積り書が出ましたので、ここに改めて石井工務店と随意契約を締結いたしましたして内装工事を施行していきたいという議案でございます。

す。

なお、二中の内装工事の、総面積六千六百六十九平米でありまして、そのうちの五二%にあたります三千四百五十二平米の内装工事を施行いたすことになります。その内容といたしましては普通教室二十一教室、職員室三教室、家庭科室、図書室等が第一期の内装工事に含まれておる次第でございます。

なお、工期は三月五日をもって契約をいたしたいということでございますので、よろしく御審議のほどお願いいたします。

質 疑 応 答

○議長（吉田勇治郎君） 御質疑願います。

○一〇番（渡辺軍治郎君） 市長の説明では競争入札で落札したというところであります、課長と食い違っているようでございます。最低価格で石井工務店が契約を結ぶということでございますが、防衛庁の補助金が予算上では積み上げ方式ということである程度時価を反映させて組んでいられると思うんですが、市のほうで一応算定した価格と契約の金額との差額といえますか、そういう点でいふ非常に物価の変動が激しい中で一応三月までの見通しとしてどうなのか、そういう点が一つ。

この前の説明ですと、一期工事の内装と二期工事の骨格、そういうものは合わせてやるようなふうに記憶して、いたんですが、その点はどうなんです。内装だけなのか、骨格まで含むのかどうか、そういう点ちょっと説明願いたいと思います。

○教育委員会庶務課長（汐崎政光君） 最初の点の御質問がよくわからなかったわけでございますけれども、当初予算と今回の契約

工事費との差、こういったことでございましょうか。

○一〇番（渡辺軍治郎君） 大体予算上では現価でもって積み上げてやるというのが、大体防衛庁の關係のあれではそうだと思うんですが、普通校舎の建築ですと国のきめた単価で、基準単価でやるということだいたい違いがあると思うんです。時価を反映した予算で組んであると思うんですが、それと入札価格との關係はどうかということでございます。

○教育委員会庶務課長（汐崎政光君） 設計金額そのものが時価を反映、当然現在単価をもって計算されたものでございます。防衛庁そのものはその単価をそのまま工事費として算定し、今回の入札価格もほぼ同じような金額でございます。

それから総体工事でございますが、これは二中の現在計画しております総体工事面積は六千六百六十九平米でございます。今四十八年度に予算におきまして実施いたしました躯体工事が三千四百五十二平米、これは総体の五二%に相当するわけでございます。当初予算におきましてはこの内装とさらに総体の二八%についての改築工事を実施すべく一応計画をもっておったんですが、現在のところ国の内定を受けましたものが五二%に相当します、すでに躯体工事を実施しております部分の内装工事のみ、こういったことでございます。

○議長（吉田勇治郎君） 他に御質疑ございませんか。――御質疑なしと認めます。

委員会付託の省略

○議長（吉田勇治郎君） おはかりいたします。

本案を委員会付託並びに討論を省略して、採決することに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(吉田勇治郎君) 御異議なしと認めます。

採 決

○議長(吉田勇治郎君) これより採決いたします。

本案を原案どおり可決するに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(吉田勇治郎君) 御異議なしと認めます。よって本案は原案どおり可決されました。

議 案 の 上 程

○議長(吉田勇治郎君) 日程第四、議案第七十四号工事請負契約の締結についてを議題といたします。

議案の朗読を願います。

(書記朗読)

議案第七十四号 工事請負契約の締結について

議 案 の 内 容 説 明

○議長(吉田勇治郎君) 議案の説明を求めます。

○庶務課長(小倉澄男君) 議案第七十四号につきまして御説明申し上げます。

ただいま市長の提案理由の説明の中にございましたとおり正木衛生処理場の増設工事十トン炉の増設工事でございますが、つき

ましてこれは日本建炉の特許工事でございますので、日本建炉工業株式会社とのたび四千四百九十万円におきまして随意契約を締結いたしました次第でございます。よろしく御審議のほどお願いいたします。

質 疑 応 答

○議長(吉田勇治郎君) 御質疑を求めます。

○一〇番(渡辺軍治郎君) 市長の説明では五年以内に移転するということを前提にしてこの契約を結んだということでございますが、五年以内に移転するということもかなり土地の取得とかそういう問題でむずかしい問題がありますが、正木から出た陳情書によつて一応これはそういうところと了解の上でやられたものか、これが第一点です。

もう一つは、五年以内に移転するというところで、これに関連して土地の取得の見通し、そういうものがあるのかないのか。おそらく正木のほうとしてもそういう見通しがなければなかなか炉の増設を認めるということとはむずかしいんじゃないかと思いますが、その辺の關係がどうなっているのかお聞きしたいと思います。

○衛生課長(館石勸治君) まず第一点の五年以内に移転するかどうかというお話でございますけれども、これは地元の方からお話があったわけでございますが、五年以内というその年数の問題につきましては、焼却炉そのものが耐用年数からしてどうしても五年以上経ちますと過去の実績から推しましてもほとんどの炉の修理といえますか、炉を全部交換するというような現象が出ておりますので、新しい炉もその程度しかもたないじゃないか、こう

いうことでございますので、それをめどにつけたわけでございます。

それから次の用地の取得の問題でございますけれども、用地につきましては現在まだここでつくろうというはつきりしたものはございませんが、将来いろいろ求めまして移転するということが了解を求めたわけでございます。

以上でございます。

○一〇番（渡辺軍治郎君） これは正木のほうでは五年以内に移転する見通しとかそういうようなことではつきりしないかどうかかわからないというようなこともあります。大体正木のほうの陳情した住民の間では了解の上でこれはやったのか、それとも市のほうは一応五年以内につくるといふ考え方で相手も了承しているというふうに考えてやったのか、そういうところがはつきりしているかどうか。要するに地元の人たち、陳情した人たちと了解の上で炉の増設をやったのかどうか。

○衛生課長（館石勘治君） 了解を得てございます。

○一〇番（渡辺軍治郎君） 了解を得てやったということなら問題はありませんが、一応地元の住民との約束が五年以内に移転するということです。場所の取得ということはどこでも非常に困難な問題だといふことがはつきりしているわけですが、そういう約束を果たす上でやっぱりいまのところはつきりした用地の取得ができるというふうな状態にはなっていないと思うんですが、これからやはり用地の取得に相当力を入れてやらないと約束を果たせないといふことで将来大きな問題がまた出てくる可能性がありまうので、その点十分心得て用地の取得に努力してもらいたいと

いうことをお願いしておきます。

○一八番（安西益男君） ちょっと参考にお伺いしたいわけですが現在あります三基は何年たっておりましようか。いまの御説明ですとこれからつくるのは大体五年以内にだめになるということでございますが、いまあるのは何年ぐらいいなくなりますか。

○衛生課長（館石勘治君） 現在使っておる炉は四十一年の十月に実施したと思います。

○一八番（安西益男君） 四十一年から今日までたっているわけですね。

○衛生課長（館石勘治君） ただいまお話ししましたとおり四十六年に修理をやりまして、炉の全部のレンガを積みかえたということでございます。以後修理を重ねておりますけれども、四十六年に炉のレンガを全部積みかえたということでございます。

○一八番（安西益男君） 三年たっているわけでございますけれども、そうしますと現在使っております炉は今後何年ぐらいい使いう見通しですか。

○衛生課長（館石勘治君） 炉の耐用年数と申しますとある程度使用方法によっても少し違ってまいりますが、過去においては非常に無理をしても申しますか、炉の量以上の、つまり計画焼却数量以上のものを多く燃やしていたというやむを得ない状況であったわけでございますけれども。こういうようなことから推しまして炉の寿命というのはいま申し上げましたとおり使用方法によってもずいぶん違ってまいります。したがってこれを埋め立て地と申しますか、これで全量が焼却できるわけでないで、それらの関連性ともまた炉の寿命が違ってまいります。以上でございます。

す。

〇一八番（安西益男君） 新しくつくって五年ということでございます。

まして、大修理といっても三年過ぎている。しかも夏季等には無理をして使っているということになりますと寿命もあと一年か二年という見通しがつけられると思うんですが、そういう点で五年以内に土地をとらう非常にゆうちょうな御説明のように受け取ったわけでございますけれども、特に先般の定例会等に用地取得の特別委員会をつくるようにという要望はしておるわけでございますが、さっそく踏み切るような態勢をとっていかないと無理しているわけですから、そこへきて土地の値段はますます上がっていく、土地の取得は困難性が出てくるわけでございますので、土地取得の態勢を整えるということから、はっきりした見通しを立ててもらいたいということから、見通しについてお伺いしたいと思ひます。

〇衛生課長（勘石勘治君） お話の今後の見通しでございますけれども、土地取得が第一の問題でございますので、これにつきましては先般御質問に答えまして市のほうとしてもそれぞれ関係者、知識経験者と申しますか、そういう方々等とお話し合いをできるようなそういうものもつくっていきたい、こういうふうに現在検討中でございます。

〇一八番（安西益男君） 現在その三炉について、それは何年ぐらゐまで使える予定ですが、

〇衛生課長（館石勘治君） これにつきましましては新しい炉が五年というような耐用年数を考えておりますので、同じところで同じようにつくられておりますので、大事に使いながら、新しい炉の寿

命に合わせながら大事に使っていき、こういうふうに私たちは考えております。

〇一八番（安西益男君） 大事に使うのはけっこうだと思ひますが、無理しても限度がありますので、大事に使うということと同時に土地取得を急いで考えて進んでいただくようお願いしたいと思ひます。以上。

〇議長（吉田勇治郎君） 他に御質疑ございませんか。――御質疑なしと認めます。

委員会付託の省略

〇議長（吉田勇治郎君） おはかりいたします。

本案を委員会付託並びに討論を省略して、採決に入りたいと思ひますが、御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

〇議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。

採決

〇議長（吉田勇治郎君） おはかりいたします。

本案を原案どおり可決するに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

〇議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よって本案は原案どおり可決されました。

議案の上程

〇議長（吉田勇治郎君） 日程第五、議案第七十五号昭和四十九年

度館山市国民健康保険特別会計補正予算を議題といたします。

議案の朗読を願います。

(書記朗読)

議案第七十五号 昭和四十九年度館山市国民健康保険特別会計

補正予算(第一号)

議案の内容説明

○議長(吉田勇治郎君) 議案の説明を求めます。

○保健課長(綱島憲治君) 議案第七十五号について御説明申し上げます。

今回歳入歳出それぞれ千五百万を追加いたしましたして、歳入歳出それぞれ八億四千二百四十八万二千円で執行する計画でございます。

一番最後をお開きいたしたいと思います。歳出より御説明申し上げます。今回高額療養費に一千五百万円追加いたしましたして総計二千三百八十七万五千円の高額療養費でございますが、これは当初予算に昭和四十九年四月から発足にあたりまして私ども六月から十月までの実績を調べたわけでございます。その結果一番少ない月で三十九件、一番多い月で四十九件、こういうことで大体五十件をめどに計算され、金額的にも八十一万ないし九十一万という数字が出たわけでございます。その結果八百八十七万五千円で執行するというふうな計画をもったわけでございます。

ところが、年度途中で一七・五%の値上がりがあり、さらには館山市の保険始まって以来の百六十万というふうな給付の額が出たわけでございます、一人について。それから人工透析という病

気が最近あるわけでございますけれども、これが八十万ないし九十万かかります。それが二人四月から出たわけでございます。それから値上げの関係でございますが、全国マクロで一七・五%という値上がりでございますけれども、本市におきますところはこれが二五%程度の値上がりをみております、実績では。それらを踏まえまして今回来年三月までのものを実績に基づいて計算をいたしますとあと千五百万ほどの不足が見込まれるということでございます。

ただし、先ほど申し上げましたように百六十万という人がいたんですが亡くなりました。それはまた場合によっては落ちることもあるはずでございます。そういう数字でございますので、この数字につきましては実績がこうだからこういうふうな数字を組む、こういうことでございますので極めて流動的な数字ではございませんけれども、実績からしますとこの程度不足するであろうという数字でございます。

さらに、それに対応いたします歳入でございますけれども、これは御案内のように半額の国庫負担金がございますので、国庫負担金七百五十万、さらに昨年度療養給付費の不足額国庫負担金の不足額が七百三十五万、これは歳入することは確定でございます。さらに繰越金十五万円をそれに充当して一千五百万の追加の財源とするものでございます。

質疑応答

○議長(吉田勇治郎君) 質疑に入ります。

○一四番(伊賀多朗君) 千五百万の中には百六十万という高額な

分を予定しての額でございますね。

○保健課長（網島憲治君） 百六十万を含めまして過去の実績がそれだけあるということですから、それに基づいて計算しましたから、含めてというふうなお考えでよろしいかと思ひます。

○議長（吉田勇治郎君） 他に御質疑ございませんか。――御質疑なしと認めます。

委員会付託の省略

○議長（吉田勇治郎君） おはかりいたします。

本案を委員会付託並びに討論を省略して採決に入りたいと思いますが、御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。

採決

○議長（吉田勇治郎君） これより採決をいたします。

本案を原案どおり可決するに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よって本案は原案どおり可決されました。

日程の追加

○議長（吉田勇治郎君） 申し上げます。

辻田 実君から議員の辞職願いが提出されております。

おはかりいたします。この際辻田 実君の議員辞職の件を日程

に追加し、議題とすることに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よってこの際辻田 実君の議員辞職の件を日程に追加し、議題といたします。

辻田 実君の議員辞職について

○議長（吉田勇治郎君） 本件については辻田 実君の一身上に関する事件でありますので、地方自治法第百十七条の規定により辻田 実君の退席を求めます。

（九番議員辻田 実君退場）

○議長（吉田勇治郎君） まず、その辞職願いを朗読いたします。

（書記朗読）

○議長（吉田勇治郎君） おはかりいたします。

辻田 実君の議員の辞職を許可するに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よって辻田 実君の議員の辞職を許可することに決しました。

辻田 実君のあいさつ

○議長（吉田勇治郎君） この際辻田 実君より発言の申し出があります。暫時これを許します。

（辻田 実君入場、登壇）（拍手）

○辻田 実君 このたびは一身上の都合によりまして、議員を辞職することになりました。

在任中は浅学非才にて、これに加えて若年にもかかわらず

あたたかい御指導と御鞭撻をいただきまして、厚くお礼を申し上げたいと思います。

いまこうした立場になりますと、その責務を十分果たせないまま任期を満了できなかったことを痛恨に思っております。しかし、政治に志を立てたからには、このような矛盾を克服していかなければならないということを自分に言いかけしております。これから先一生懸命に努力いたしまして、この備いはいたしてまいりたい所存でございます。

辞任に際して、伝統と名誉に輝く館山市議会に議員として在任できたこの誇りを大切にして、これからもこの名誉を汚さないように一生懸命にがんばってまいりたいつもりでございます。

議員の皆さま方にはますます御健勝で御清栄のほどを祈念し、ここにつつしんで辞任のお礼とごあいさつを申し上げる次第でございます。長い間ありがとうございました。(拍手)

○議長(吉田勇治郎君) 暫時休憩いたします。

午前十時 四十分 休 憩

午前十時四十九分 再 開

○議長(吉田勇治郎君) 休憩前に引き続き会議を開きます。

日 程 の 追 加

○議長(吉田勇治郎君) この際おはかりいたします。

ただいま辻田 実君の議員の辞職が許可され、館山市、富浦町及び三芳村学校給食組合議会議員が欠員となりましたので、組合規約第七条第二項の規定により、この補欠選挙を日程に追加し、直ちに選挙を行ないたいと思ひます。これに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(吉田勇治郎君) 御異議なしと認めます。よってこの際館山市、富浦町及び三芳村学校給食組合議会議員補欠選挙を日程に追加し、選挙を行なうことに決しました。

館山市、富浦町及び三芳村学校給食組合議会議員補欠選挙

○議長(吉田勇治郎君) これより学校給食組合議会議員の補欠選挙を行います。

おはかりいたします。選挙の方法は地方自治法第百十八条第三項の規定により指名推選によりたいと思ひます。これに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(吉田勇治郎君) 御異議なしと認めます。よって選挙の方法は指名推選によることに決しました。

おはかりいたします。指名の方法は議長において指名することにしたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(吉田勇治郎君) 御異議なしと認めます。よって議長において指名することに決しました。

学校給食組合議会議員に島野茂樹郎君を指名いたします。

おはかりいたします。ただいま議長において指名いたしました島野茂樹郎君を館山市、富浦町及び三芳村学校給食組合議会議員の当選人と定めますことに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(吉田勇治郎君) 御異議なしと認めます。よって指名のと

おり島野茂樹郎君が当選されました。

ただいま当選されました島野茂樹郎君が議場におられますので、本席より会議規則第三十二条第二項の規定により告知をいたします。

閉

会 午前十時五十一分閉会

○議長（吉田勇治郎君） 以上で本臨時会に付議されました案件は議了されました。よってこれにて第三回市議会臨時会を閉会いたします。

○本日の会議に付した事件

一、会議録署名議員の指名

一、会期の決定

一、議案第七十三号乃至議案第七十五号

一、日程追加・辻田 実君の職員辞職について

一、日程追加・館山市、富浦町及び三芳村学校給食組合議会議員

補欠選挙

地方自治法第二百二十三条第二項の規定により署名する。

館山市議会議長

吉田勇治郎

館山市議会議員

五ノ一 島野

館山市議会議員

吉田

死亡により署名不可能

